

# 福井

## 「福井全研ニュース第 4 号」

「ぽ〜れぽ〜れ 2 月号」福井県版特別号

発行日 平成 30 年 2 月 25 日  
 編集・発行 公益社団法人 認知症の人と家族の会 福井県支部  
 事務局 〒910-0017  
 福井市文京 2-9-1 嶺北認知症疾患医療センター内  
 TEL : 0776-28-2929 FAX : 0776-63-6756  
 E-mail: monowasure@fmatsubara.com

### ヒストリー福井 第 2 章「織田信長と福井のつながり」

好評であった第 1 章に続き、この号でも福井の歴史をお伝えします。今回はあの戦国武将「織田信長」と福井のつながりをお伝えします。

織田信長公は福井県越前町の織田にある神官の出です。織田氏の祖は越前織田の荘官として、また越前二の宮の神官として代々、社に仕えてきた由緒ある家柄でした。応永年間（1394～1427）、神官の子「常昌」は、時の越前の守護斯波氏にその才能を見出され、家臣として取り立てられ、尾張の国に派遣されました。苗字は故郷の地名をとって織田氏を名乗るようになりました。

織田氏は次第に尾張で勢力を伸ばし守護代にまで昇りつめ、信長公の時には尾張一円を掌握し、更に日本全国に雄飛するまでになりました。

また本能寺の乱で織田信長を討ったとされる明智光秀公も福井市にゆかりのある人物です。

ヒストリー福井は暫く戦国時代を中心にお伝えする予定です。お楽しみください。



平成元年（1989 年）に完成し、長崎の平和記念像を作者として有名な北村西望氏の原作を模したものです。

奈良時代より祈願の霊場と尊ばれ、朝廷をはじめ多くの人々から厚い信仰を受けてきました。特に織田信長公は先祖が当社の神官であったことから、劔神社を「氏神」として厚く崇敬されました。



「いざ！！全研へ！！」

## 「ボランティアさんが必要だ！！」

正月気分が抜けきれない 1/6（土）に福井県支部の世話人会を行いました。  
新年の挨拶を早々に行い、目指すべきは 10 月 28 日（日）。

1/6 時点での全研までの日数は「295 日」と長く短い日数でした。

午前 9 時から午後 1 時まで基調講演の講師について、当日の役割について  
またロードマップを用いて必要な事、準備物等、熱い話し合いを行いました。

全国の方をお迎えするにあたり「ボランティアさんの協力が必要！！」ということで、

2/10 のキャラバンメイト交流会にお邪魔し、ブースを設け、「認知症の人と家族の会」の事、「全国研究集会」の事を宣伝し、一人でも多くの協力頂ける方を募集する動きとなりました。（キャラバンメイトは豪雪により中止となりました）



## 松原代表 地方新聞「県民福井」の取材を受ける



福井県の地方新聞「県民福井」から全国研究集会の取材を受け、福井県支部の松原代表が全研に向けての思いを伝えました。その中で、認知症の支援として、病気発症を防ぐ「1次予防」、早期発見・早期治療の「2次予防」、リハビリ・機能維持を図る「3次予防」、認知症になっても認知症であることが気にならないような環境を整備して認知症の人が暮らしやすい「4次予防」があり、福井全研ではこの「4次予防」を重点的に取り組み、福井をはじめ全国の人たちが認知症を理解して住みよい街づくりを進めていきたいと話されていました。

「福井全研を通して、一般の人たちの心に認知症の人たちへの支援の火を付け、住民発信の市民運動を目指したい」と、開催がゴールではなく、福井全研からスタートするという松原代表の熱い気持ちが伝わる取材内容でした。

福井県支部一丸となり、「認知症になってもそこで終わりではない、まだまだやれるんだ」ということを全研に参加された方々に伝えるようにしたいと実感しました。



# 介護独楽吟 → 大大・大募集

## 「介護独楽吟」って何? No2

幕末の福井の歌人・国学者の橘曙覧は清貧に甘んじ家族との生活の中に喜びや楽しみを見出し、「たのしみは」で始まり「する時」で終わる歌 52 首を詠み歌集「独楽吟」として残しました。

2 月 6 日からの福井豪雪により、当たり前前の生活が麻痺し、日々不安を抱きながらも綱渡りの状態での仕事、食料品やガソリンなどの燃料不足への不安、除雪をしても、次の日にはそれ以上の積雪があり、終わりの見えない除雪作業など、苦しみ悩む日々の中豪雪は被害ばかりでなく、小さなふれあいや、嬉しさや暖かさも連れてきてくれたような気がします。今月号は「介護独楽吟」ならぬ「豪雪独楽吟」を掲載します。

より身近な話題から「独楽吟」を作成し、「介護独楽吟」を少しでも身近な存在になればと思います。

認知症の人と家族に対する理解と支援を多くの皆さんに求めるため私どもの「介護独楽吟」を全研会場だけ手なく福井市内の公共機関等に掲示させてもらいたいと考えています。

多くの皆様から「介護独楽吟」を福井県支部にお寄せいただきたいと思います。

送付先 認知症の人と家族の会福井県支部事務局

〒910-0017 福井市文京 2-9-1 嶺北認知症疾患医療センター内

FAX: 0776-63-6756 E-mail monowasure@fmatsubara.com

### 豪雪独楽吟

福井県支部世話人

たのしみは 雪かき終わり家の中

外を眺める笑顔見たとき

たのしみは スコップ片手に車を押し

見知らぬ人と握手したとき

たのしみは 三八豪雪五六豪雪

いつもより多弁な話聞いたとき

たのしみは 吹雪の中の徒競走

抜かし抜かされ勝利したとき

たのしみは 腰痛肩こり筋肉痛

ジョセツサイズを実感したとき

\*ジョセツサイズ(除雪+エクササイズ)

たのしみは スコップ休め 雪壁に

もたれて友のメール見たとき

たのしみは 灯油買はんと並びいる

列になじみの笑顔見るとき

たのしみは 母と56豪雪の

写真みながら思い出語るとき

たのしみは 久しぶりのあんぱん

噛みしめて 2 個食べるとき



### 運営委員の声

1/14 (日) の「認知症の人と家族の会 理念学習会」に参加し、改めて社会(介護業界)に対する当会の存在意義を実感しました。介護保険サービスが創設されるよりも以前に認知症ケアの重要性を提言していたことは、専門職として働いている私にとっては、とても衝撃でした。と同時にもっとこの会を他の介護に携わっている方々に知ってもらいたいとも思いました。

福井全研を通して、少しでも多くの人に当会の理念や活動を知ってもらえたらと思うばかりです。





写真左上より 坂田事務局次長、阿部本部事務局長、坂井副代表 和田実行委員  
鈴木本部代表、東村市長、松原代表、ご本人代表坂井裕子氏

2月5日（月曜日）に本部から鈴木代表はじめ、3名の方が京都より来福し、東村市長へ表敬訪問しました。

10月28日（日）の全国研究集会のPRと認知症の人と家族の会の活動内容の報告を行いました。市長も身内の方に認知症の方がおり、とても身近な話題だということもあり、家族の会の活動、全研について、全面的に協力するとのことのお言葉を頂きました。



## 福井豪雪 2018

2/6の明け方に降り続いた雪はあっという間に膝丈まで積もりました。車庫から車が出せない。出せてもスタック（タイヤの空回りで行くことができない）での立ち往生の車が多数。6日からの降雪は止むことなく、職員の出勤もできず、送迎時の安全確保もできず、止む無くデイサービスの営業を停止せざる負えない状況でした。通勤に7時間以上かかった職員もあり、あっという間に「災害」状態になりました。

市内のバスや電車が運転している事、コンビニエンスストアにおにぎり、パンが並んでいる事、ガソリンスタンドで給油できる事、学校が開校している事、などの「日常」は一週間失われましたが、地域共同での除雪作業、車の掘り起し、渋滞時の対向車からの「渋滞情報」、近所にいる高齢者の安否確認、などの「人間の温かさ」を再確認しました。

今回の豪雪において福井全研のテーマである「地域力」を実感しました。

また全国各地から励ましご心配頂きありがとうございます。福井は徐々に「日常」へ向かっています。

10月28日にはすっかり雪もとけていますでしょう。

